

盛岡市環境基本計画(第二次)の達成状況と課題

1 盛岡市環境基本計画(第二次)における取組

2011(平成23)年度から2020(令和2)年度を期間とした盛岡市環境基本計画(第二次)では、市が目指す5つの環境像を定め、各環境像の下に「基本目標」、「施策の方向」、「管理指標」を設定し、計画を推進してきました。

取組の結果、2019(令和1)年度においては、28の指標のうち9つが目標を達成(◎)し、さらに9つの指標で50%~100%未満の達成(○)となるなど一定の成果を挙げていますが、残りの10の指標は達成率が50%未満(△や×)となっています。

▼盛岡市環境基本計画(第二次)における指標の達成状況の推移

めざす環境像 (関係するSDGsのゴール)	管理指標等	単位	当初値	達成状況 R1	目標値 R2	目指す 方向
1 健康で安全に生活できるまち    	まちづくり評価アンケート調査で「清潔で衛生的、公害がない」といった点で、きれいなまちだと思う」と答えた市民の割合	%	68.6 (H21)	78.5 ○	80.0	↗
	大気環境基準適合率	%	99.4 (H21)	97.6 ×	100.0	↗
	水質環境基準適合率	%	100.0 (H21)	94.3 ×	100.0	↗
	騒音環境基準適合率	%	81.4 (H21)	89.1 △	100.0	↗
	生活環境に関する苦情件数	件	80 —	57 ◎	70	↘
2 生物の多様性を育む自然が豊かなまち  	まちづくり評価アンケート調査で「自然が守られていると思う」と答えた市民の割合	%	77.5 (H21)	80.4 △	86.0	↗
	民有林面積	ha	48,168 (H25)	48,100 ○	48,168	→
	地域材利用量の割合	%	82.0 (H21)	99.9 ◎	91.5	↗
	民有林の施業面積	ha	834 —	762 ×	864	↗
	農用地区域面積(水田・耕作・樹園地)の現状維持	ha	7,053 (H25)	7,059 ◎	7,053	→
	耕作放棄地面積	ha	20.1 (H25)	5.9 ◎	19.5	↘
3 快適で心豊かに暮らせるまち 	まちづくり評価アンケート調査で「公園や街路樹などの街の中の緑が多いと思う」と答えた市民の割合	%	73.7 (H21)	77.2 ○	80.0	↗
	市民1人当たりの都市公園等面積	m ²	10.7 (H21)	12.13 ◎	12.00	↗
	街路樹のある道路延長	km	87.9 (H21)	102.5 ○	112.0	↗
	対象となる地域活動団体のうち花苗を配布した団体数の割合	%	58.4 (H21)	66.4 ◎	65.0	↗
	景観計画の基準に適合した建築行為等の割合	%	100.0 (H21)	100.0 ◎	100.0	→

めざす環境像 (関係するSDGsのゴール)	管理指標等	単位	当初値	達成状況 R1	目標値 R2	目指す 方向
4 資源を大切に地球環境の保全に 貢献するまち 	温室効果ガスの総排出量	千t	2,466 (H25)	2,309(H29) △	1,677 (R12)	↘
	太陽光発電による売電契約数【累計】	件	1,012 (H21)	6,099 △	14,000 (R12)	↗
	通勤時における自家用車利用率	%	62.9 (H21)	67.4 ×	53.0 (R6)	↘
	ごみ総排出量	t	118,398 (H25)	108,210 ○	108,136 (R3)	↘
	家庭ごみ(資源を除く)の1人1日あたりのごみ排出量	g	509 (H25)	480 ○	473 (R3)	↘
	事業系一般廃棄物の年間排出量	t	44,427 (H25)	41,445 ○	40,898 (R3)	↘
	資源率 ((行政回収資源量+資源集団回収量)/家庭ごみ総排出量)	%	24.5 (H25)	23.1 ×	26.0 (R3)	↗
5 持続可能な地域社会の実現に取り組む 市民のまち 	学校や市立社会教育施設で行われる環境啓発事業等への参加者数(生活環境の保全)	人	43,000 —	42,439 ○	43,000	→
	学校や市立社会教育施設で行われる環境啓発事業等への参加者数(自然体験, 自然との共生)	人	174,000 —	220,242 ◎	174,000	→
	学校や市立社会教育施設で行われる環境啓発事業等への参加者数(地球環境への貢献)	人	23,000 —	36,527 ◎	23,000	→
	「きれいな街づくり運動」及び「花の児童画」図画コンクールの学校参加率	%	82.4 —	70.0 ×	85.0	↗
	盛岡市子どもエコチャレンジの参加者数【累計】	人	4,839 (H25)	14,918 ○	17,000	↗

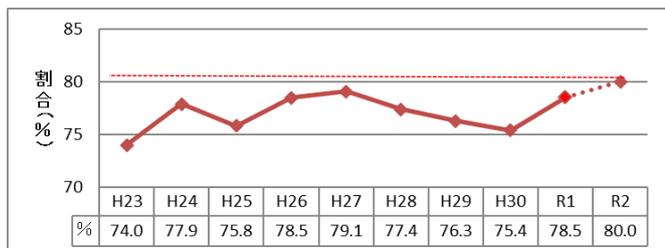
※ 当初値は、指標設定時の最新値または複数年の平均値としています。

※ 目指す方向性が↑又は↓ ◎:当初値から達成率100%以上, ○:同50%以上, △:同50%未満, ×:同0%以下
 目指す方向性が→ ◎:当初値以上, ○:当初値からの減少率10%未満, △:同20%未満, ×:同20%以上

1 「健康で安全に生活できるまち(生活環境)」

総合的な指標	当初値	目標値	直近3年の達成状況		
まちづくり評価アンケート調査で「清潔で衛生的, 公害がないといった点で綺麗なまちだと思う」と答えた市民の割合	68.6% (平成21年度)	80.0% (令和2年度)	76.3%(○) (平成29年度)	75.0%(○) (平成30年度)	78.5%(○) (令和元年度)

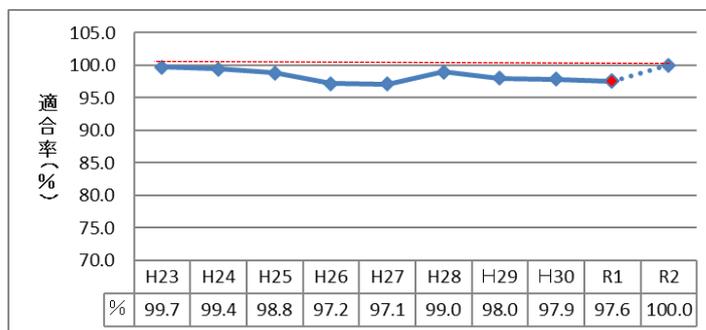
目標は達成できていませんが、おおむね高い数値で推移しており、生活環境はある程度良好な状態にあると考えられます。



管理指標	当初値	目標値	直近3年の達成状況		
大気環境基準適合率 (適合地点数/測定地点数)	99.4% (平成21年度)	100.0% (令和2年度)	98.0%(×) (平成29年度)	97.9%(×) (平成30年度)	97.6%(×) (令和元年度)

当初値を下回り、未達成となりましたが、適合率は97%以上の高い水準で推移しており、おおむね良好な状況にあります。

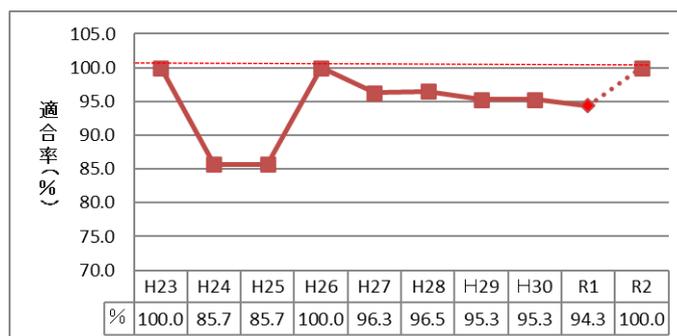
不適合の原因である光化学オキシダントについては全国的に達成が困難な項目で、その濃度は気象条件によって影響を受けるとされています。



管理指標	当初値	目標値	直近3年の達成状況		
水質環境基準適合率 (適合地点数/測定地点数)	100.0% (平成21年度)	100.0% (令和2年度)	95.3%(×) (平成29年度)	95.3%(×) (平成30年度)	94.3%(×) (令和元年度)

目標値に達していませんが、90%以上の高い水準で推移しており、おおむね良好な状況にあります。

令和元年度での測定結果では、河川における大腸菌群数、BODの基準超過や地下水の定期モニタリング地点における環境基準超過がありました。

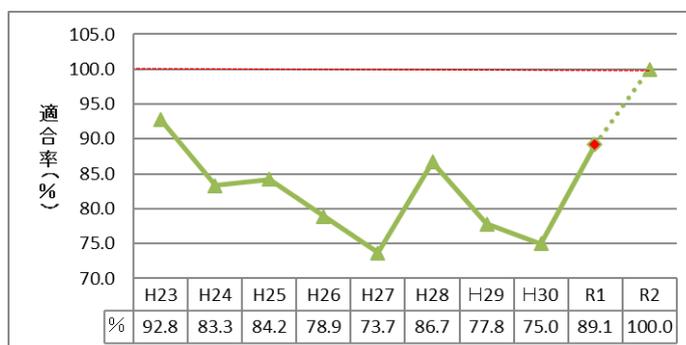


管理指標	当初値	目標値	直近3年の達成状況		
騒音環境基準適合率 (適合地点数/測定地点数)	81.4% (平成21年度)	100.0% (令和2年度)	77.8%(×) (平成29年度)	75.0%(×) (平成30年度)	89.1%(△) (令和元年度)

令和元年度は改善したものの、当初値を下回ることが多い状況です。

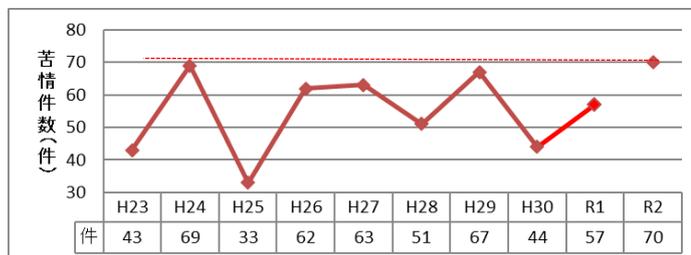
郊外型の大型店舗が増えたこと等により、一部地域で自動車の交通量が増加し、一般環境騒音や自動車騒音の基準達成率が低下したことが要因として考えられます。

低騒音舗装など道路構造の改良や公共交通機関の利用促進に取り組む必要があります。



管理指標	当初値	目標値	直近3年の達成状況		
生活環境に関する苦情件数	80件 (平成17～25年度の実績平均)	70件 (令和2年度)	67件(◎) (平成29年度)	44件(◎) (平成30年度)	57件(◎) (令和元年度)

生活環境に関する苦情件数は、良好な状態で推移しており、目標を達成しています。



2 「生物の多様性を育む自然が豊かなまち(自然環境)」

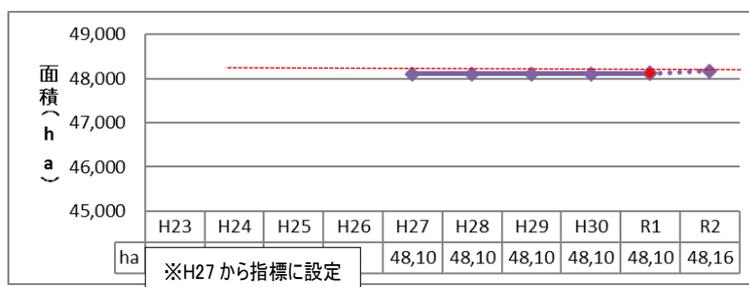
総合的な指標	当初値	目標値	直近3年の達成状況		
まちづくり評価アンケート調査で「自然が守られていると思う」と答えた市民の割合	77.5% (平成21年度)	86.0% (令和2年度)	80.4%(△) (平成29年度)	81.1%(△) (平成30年度)	80.4%(△) (令和元年度)

当初値からほぼ変化が無く、目標を達成できていませんが、80%以上の高い割合で推移しており、おおむね良好な状態が保たれていると考えられます。



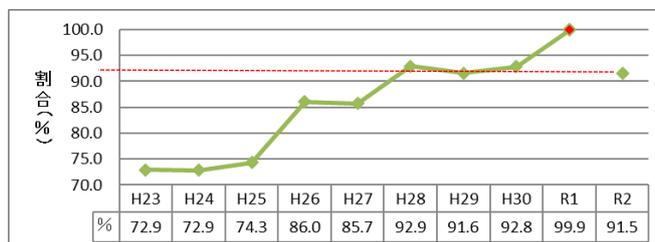
管理指標	当初値	目標値	直近3年の達成状況		
私有林面積	48,168ha (平成25年度)	48,168ha (令和2年度)	48,100ha(○) (平成29年度)	48,100ha(○) (平成30年度)	48,100ha(○) (令和元年度)

当初値をおおむね維持できていることから、目標をほぼ達成しています。



管理指標	当初値	目標値	直近3年の達成状況		
地域材利用量の割合 (地域材利用量/地域材発生量)	82.0% (平成 21 年度)	91.5% (令和2年度)	91.6% (◎) (平成 29 年度)	92.8% (◎) (平成 30 年度)	99.9% (◎) (令和元年度)

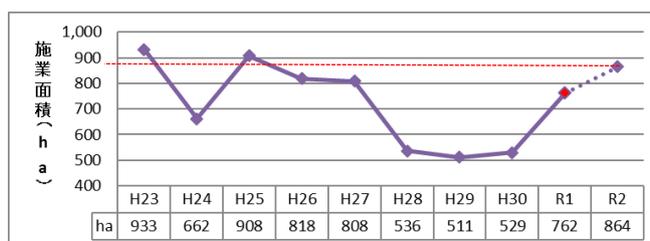
平成 29 年度以降，目標値を達成しており，良好な状態で推移しています。



管理指標	当初値	目標値	直近3年の達成状況		
民有林の施業面積 (間伐・主伐・再造林)	834ha (平成 23~25 年 度実績の平均)	864ha (令和2年度)	511ha (×) (平成 29 年度)	529ha (×) (平成 30 年度)	762ha (×) (令和元年度)

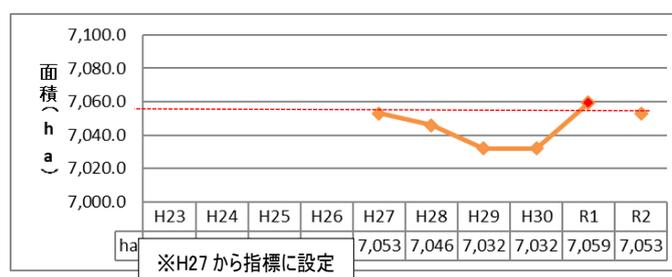
令和元年度は改善が見られたものの，目標値を下回る状況が続いています。民有林の成熟化が進み，若齢林が減ったことにより，間伐が大きく減少したことが要因となっています。

森林は，二酸化炭素の吸収源等の役割も有していることから，今後も適切な維持管理に取り組む必要があります。



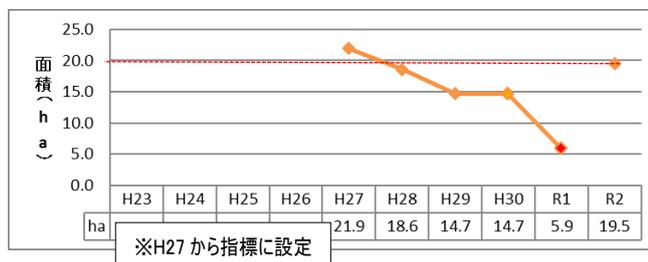
管理指標	当初値	目標値	直近3年の達成状況		
農用地区域面積(水田・耕作・樹園地)の現状維持	7,053ha (平成 25 年度)	7,053ha (令和2年度)	7,032ha (○) (平成 29 年度)	7,032ha (○) (平成 30 年度)	7,059ha (◎) (令和元年度)

農用地区域面積は，目標値をおおむね維持できており，目標を達成しています。



管理指標	当初値	目標値	直近3年の達成状況		
荒廃農地面積	20.1ha (平成 25 年度)	19.5ha (令和2年度)	14.7ha(◎) (平成 29 年度)	14.7ha(◎) (平成 30 年度)	5.9ha(◎) (令和元年度)

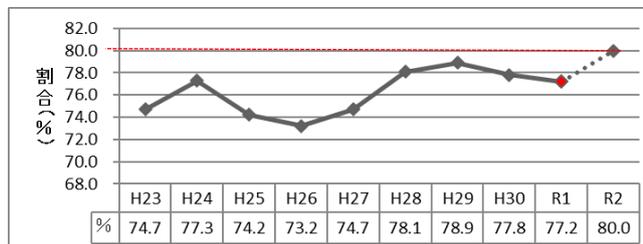
毎年，減少を続けており，平成 28 年度以降は目標を達成しています。



3 「快適で心豊かに暮らせるまち（住環境）」

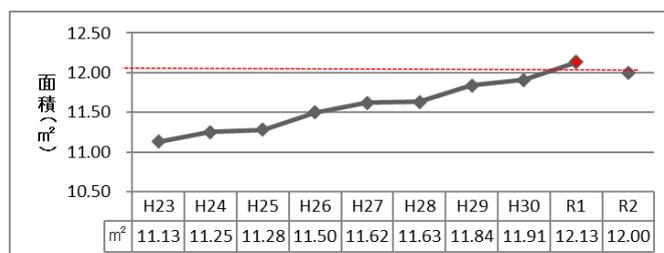
総合的な指標	当初値	目標値	直近3年の達成状況		
まちづくり評価アンケート調査で「公園や街路樹などの街の中の緑が多いと思う」と答えた市民の割合	73.7% (平成 21 年度)	80.0% (令和2年度)	78.9%(○) (平成 29 年度)	77.8%(○) (平成 30 年度)	77.2%(○) (令和元年度)

目標を達成できていませんが，おおむね高い割合で推移しており，良好な状態が保たれていると考えられます。



管理指標	当初値	目標値	直近3年の達成状況		
市民1人あたりの都市公園等面積	10.7 m ² (平成 21 年度)	12.00 m ² (令和2年度)	11.84 m ² (○) (平成 29 年度)	11.91 m ² (○) (平成 30 年度)	12.13 m ² (◎) (令和元年度)

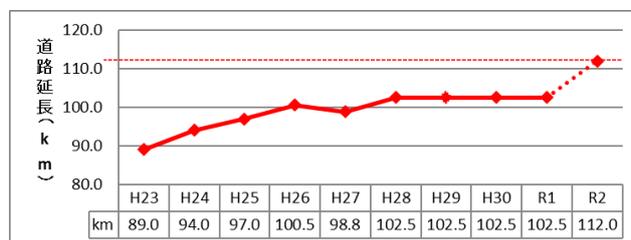
市民1人あたりの都市公園面積は，増加を続けており，目標を達成しています。



管理指標	当初値	目標値	直近3年の達成状況		
街路樹のある道路延長	87.9 km (平成 21 年度)	112.0 km (令和2年度)	102.5 km (○) (平成 29 年度)	102.5 km (○) (平成 30 年度)	102.5 km (○) (令和元年度)

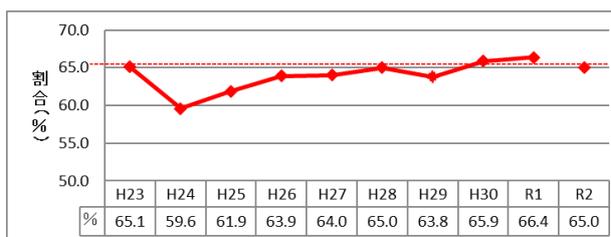
街路樹のある道路延長は、当初値からは増加していますが、目標は達成できていません。

街路樹は道路の整備状況によって増加しない年もありますが、今後、完成する道路に植樹を予定しているため、増加が見込まれます。



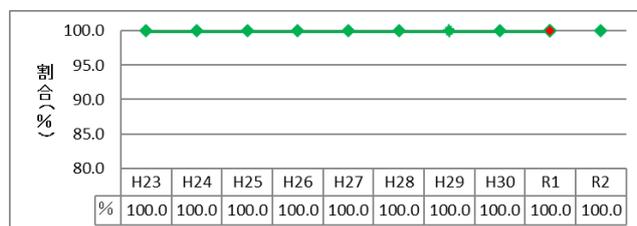
管理指標	当初値	目標値	直近3年の達成状況		
対象となる地域活動団体のうち花苗を配布した団体数の割合	58.4% (平成 21 年度)	65.0% (令和2年度)	63.8% (○) (平成 29 年度)	65.9% (◎) (平成 30 年度)	66.4% (◎) (令和元年度)

当初値を上回る数値で推移しており、平成30年度以降は目標を達成しています。



管理指標	当初値	目標値	直近3年の達成状況		
景観計画の基準に適合した建築行為等の割合 (基準に適合した建築行為等の件数/届け出件数)	100% (平成 21 年度)	100% (令和2年度)	100% (◎) (平成 29 年度)	100% (◎) (平成 30 年度)	100% (◎) (令和元年度)

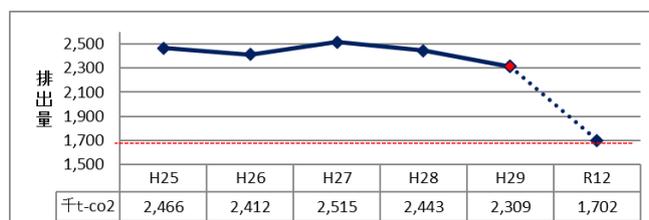
目標を達成しており、適合割合は100%を維持し続けています。



4 「資源を大切に地球環境の保全に貢献するまち（地球環境）」

総合的な指標	当初値	目標値	直近3年の達成状況		
温室効果ガスの総排出量	2,466 千t-CO2 (平成25年度)	1,702 千t-CO2 (令和12年度)	2,482 千t-CO2(×) (平成27年度)	2,443 千t-CO2(△) (平成28年度)	2,309 千t-CO2(△) (平成29年度)

東日本大震災後、火力発電が占める割合が高まった結果、電力排出係数が上昇し、総排出量も増加しましたが、それ以降は、再生可能エネルギーの普及等により、電力排出係数は減少傾向にあります。そのような要因もあり、温室効果ガスの総排出量は減少傾向ではあるものの、令和12年度の目標値には遠く及んでいません。部門別に見ると、業務その他部門、家庭部門の排出量が多く、次いで運輸部門の排出量が多くなっています。

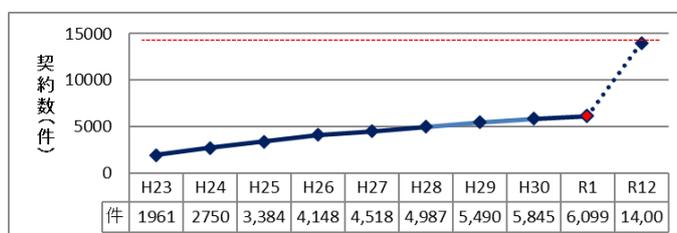


このような状況を踏まえ、今後も温室効果ガスの排出削減に関する取組を推進する必要があります。

- ※電力排出係数…電力会社が一定の電力を作り出す際にどれだけの二酸化炭素を排出したかを推し測る指標
- ※業務その他部門…第三次産業(水道・廃棄物・通信・商業・サービス業・公務など)に属する企業及び個人

管理指標	当初値	目標値	直近3年の達成状況		
太陽光発電による売電契約数(累計)	1,012 件 (平成21年度)	14,000 件 (令和12年度)	5,490 件(△) (平成29年度)	5,845 件(△) (平成30年度)	6,099 件(△) (令和元年度)

令和12年度の目標値には達していないものの、毎年着実に件数を増やしています。設備価格の低下もあり、今後もさらに導入が進むものと推測されます。



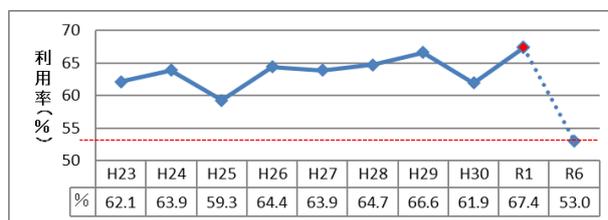
(参考)平成23年度以降の契約数(累計)の推移

管理指標	当初値	目標値	直近3年の達成状況		
通勤時における 自家用車利用率	62.9% (平成 21 年度)	53.0% (令和6年度)	66.6% (×) (平成 29 年度)	61.9% (△) (平成 30 年度)	67.4% (×) (令和元年度)

増加傾向にあり、目標は達成できていません。

盛岡南新都市（盛南地域）と周辺地域の人口増加が影響していると考えられ、市内の車両登録数は平成 23 年度以降、増加を続けています。

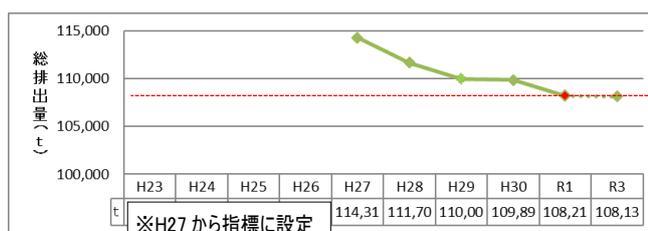
公共交通機関の利便性の向上や、自転車専用道の整備等を推進する必要があります。



管理指標	当初値	目標値	直近3年の達成状況		
ごみ総排出量	118,398t (平成 25 年度)	108,136t (令和3年度)	110,003t (○) (平成 29 年度)	109,892t (○) (平成 30 年度)	108,210t (○) (平成 30 年度)

ごみの排出量は減少傾向にあり、ほぼ目標を達成しています。

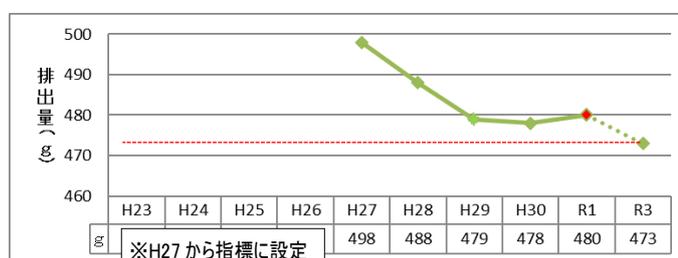
家庭ごみの減少の影響が大きく、毎年の啓発活動等の取組の成果が表れていると考えられます。



管理指標	当初値	目標値	直近3年の達成状況		
家庭ごみ(資源を除く)の1人 1日当たりのごみ排出量	509g (平成 25 年度)	473g (令和3年度)	479g (○) (平成 29 年度)	478g (○) (平成 30 年度)	480g (○) (令和元年度)

減少傾向にありますが、目標の達成には至っていません。

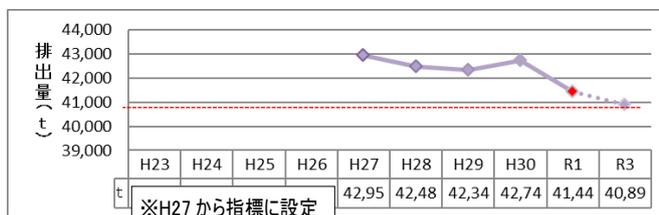
今後も 3R を推進していく必要があります。



管理指標	当初値	目標値	直近3年の達成状況		
事業系一般廃棄物の年間排出量	44,427t (平成25年度)	40,898t (令和3年度)	42,340t(△) (平成29年度)	42,748t(△) (平成30年度)	41,445t(○) (令和元年度)

目標を達成には至っていないものの、令和元年度は大きく減少しました。

今後も、事業者との連携や効果的な指導を展開することにより、削減に努める必要があります。



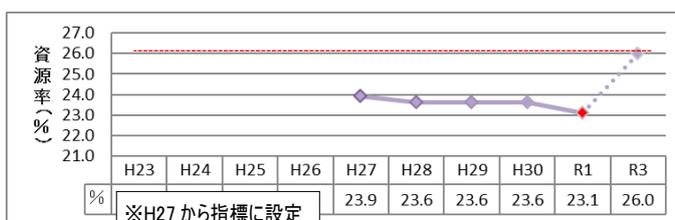
管理指標	当初値	目標値	直近3年の達成状況		
資源率	24.5% (平成25年度)	26.0% (令和3年度)	23.6%(×) (平成29年度)	23.6%(×) (平成30年度)	23.1%(×) (令和元年度)

※資源率… (家庭ごみ(資源)排出量+資源集団回収量) / (家庭ごみ排出量+資源集団回収量)

資源率はほぼ横ばいで推移しており、目標を達成できていません。

資源集団回収量の減少が影響していると考えられます。増加傾向にあるとされる、店頭の資源回収量等が反映されていないことも要因として考えられます。

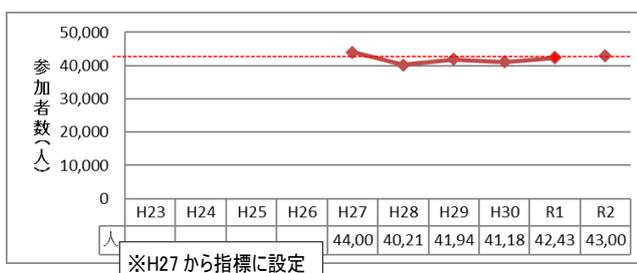
今後もごみ分別の啓発に努める必要があります。



5 「持続可能な地域社会の実現に取り組むまち（環境教育・環境学習）」

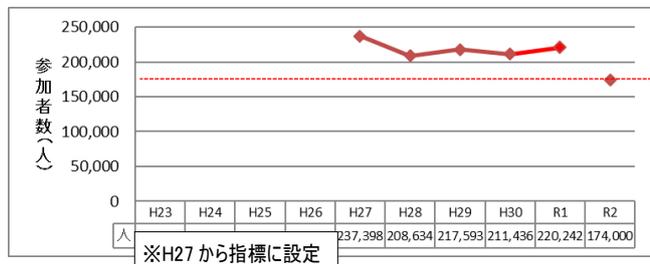
総合的な指標	当初値	目標値	直近3年の達成状況		
学校や市立社会教育施設で行われる環境啓発事業等への参加者数(生活環境の保全)	43,000人 (平成24~25年度の実績平均) ※千人未満切上	43,000人 (令和2年度)	41,943人(○) (平成29年度)	41,185人(○) (平成30年度)	42,439人(○) (令和元年度)

おおむね当初値を維持した数値で推移しており、目標値もほぼ達成しています。



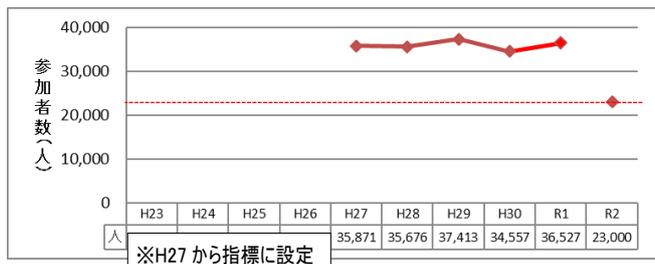
総合的な指標	当初値	目標値	直近3年の達成状況		
学校や市立社会教育施設で行われる環境啓発事業等への参加者数 (自然体験, 自然との共生) ※千人未満切上	174,000 人 (平成 24~25 年度の実績平均)	174,000 人 (令和2年度)	217,593 人(◎) (平成 29 年度)	211,436 人(◎) (平成 30 年度)	220,242 人(◎) (令和元年度)

良好な状況を維持しており、目標値を上回る数値で推移しています。



総合的な指標	当初値	目標値	直近3年の達成状況		
学校や市立社会教育施設で行われる環境啓発事業等への参加者数 (地球環境への貢献) ※千人未満切上	23,000 人 (平成 24~25 年度の実績平均)	23,000 人 (令和2年度)	37,413 人(◎) (平成 29 年度)	34,557 人(◎) (平成 30 年度)	36,527 人(◎) (令和元年度)

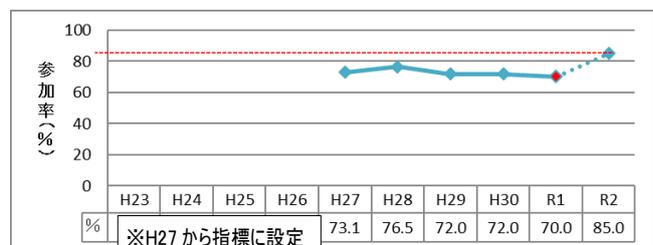
良好な状況を維持しており、目標値を上回る数値で推移しています。



管理指標	当初値	目標値	直近3年の達成状況		
「きれいな街づくり運動」及び「花の児童画」図画コンクール の学校参加率 (参加学校数/全学校数)	82.4% (平成 21~26 年度の実績値平均)	85.0% (令和2年度)	72.0%(×) (平成 29 年度)	72.0%(×) (平成 30 年度)	70.0%(×) (令和元年度)

当初値を下回り、目標を達成できませんでした。

※当事業は令和元年度をもって終了しました。

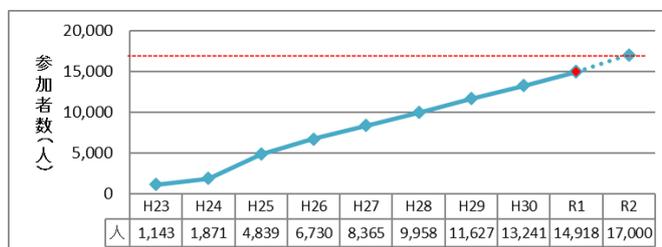


管理指標	当初値	目標値	直近3年の達成状況		
盛岡市子どもエコチャレンジの参加者数(累計)	4,839 人 (平成 25 年度)	17,000 人 (令和2年度)	11,627 人(○) (平成 29 年度)	13,241 人(○) (平成 30 年度)	14,918 人(○) (令和元年度)

※盛岡市子どもエコチャレンジ…小学4年生を対象として、夏休み期間中に家庭で省エネ行動に取り組むもの

目標達成に向けて順調に増加しています。

今後も多くの小学生に参加してもらえるよう取組を進めます。



2 盛岡市環境基本計画(第二次)の取組の総括

(1) 健康で安全に生活できるまち

各管理指標は目標未達成の項目が多いですが、達成率を数値として見ると、騒音の環境基準適合率を除いて高い達成率を維持しています。第2次計画策定時に課題とされた生活排水についても、河川のBOD値が改善傾向にあることから、排水処理関連インフラの整備と啓発活動の効果が表れているものと考えられます。また、公害苦情の件数も目標を達成している状況が続いており、工場及び事業者等への指導・監視や公害防止協定の締結、市民への啓発活動等の成果と考えられ、これらの状況を踏まえると、健康で安全に生活できるまちは達成方向に向かっています。

一方、騒音については、達成率が低い状況にあり、原因として交通量の増加が考えられることから、公共交通機関等の交通手段の利用促進が必要と言えます。

(2) 生物の多様性を育む自然が豊かなまち

多くの管理指標が目標を達成もしくは達成に準ずる実績を残しており、総合指標であるまちづくりアンケート調査でも多くの人が「自然が守られていると思う」と答えています。

ただし、民有林の施業面積は目標に達していない状況です。森林は様々な環境保全機能を有しており、二酸化炭素の吸収や災害の防止・低減も期待されることから、今後も健全な森林整備を推進する必要があります。

(3) 快適で心豊かに暮らせるまち

多くの管理指標が目標達成もしくは達成に準ずる実績を残しており、総合指標であるまちづくりアンケート調査でも多くの人が「街の中の緑が多いと思う」と答えています。

今後も快適な住環境を形成していくために、自然環境・歴史的環境などの魅力を再認識し活用することや、担い手不足等の課題に取り組む必要があります。

(4) 資源を大切に地球環境の保全に貢献するまち

公共施設への太陽光発電システムやペレットストーブ等の木質バイオマスの導入の推進、一般住宅への太陽光発電システム等設置費補助制度の実施等により、温室効果ガス排出量の削減を図ってきましたが、目標値には達していません。今後も、今までの取組に加えて、ZEH(ネットゼロエネルギーハウス)、ZEB(ネットゼロエネルギービル)等の新しい技術の普及や、地中熱等の他の再生エネルギーの活用が求められます。

他にも低炭素型のまちづくりを目指し、公共交通機関や自転車専用道等の整備による自家用車利用の抑制を進めてきましたが、管理指標である通勤時における自家用車利用率については、改善が見られませんでした。今後も公共交通機関の利用促進等の低炭素型のまちづくりに関する取組をさらに推進する必要があります。

ごみ問題に関しては、家庭ごみの排出量が減少傾向にあり、日常的な啓発活動の成果が表れているものと考えられますが、1人1日当たりのごみ排出量は県全体平均よりも多く、今後ごみの減量に向けた取組を行っていくことが必要です。また、近年問題となっている食品ロスについては、本市における実態を踏まえて、他計画との整合を図りながら取組を行っていく必要があります。

※ZEB…ネット・ゼロ・エネルギー・ビルディングの略。室内環境を維持しながら、省エネ化と再エネ導入により、年間の一次エネルギー消費量の収支0を目指したビルのこと。

(5) 持続可能な地域社会の実現に取組む市民のまち

第二次計画においては、環境学習拠点の整備や、環境学習講座の継続的な開催など、環境保全活動を担う人材の育成を行うとともに、事業者等との協働による事業の実施、各種イベント等を通して立場を越えた情報や人的交流の促進を実施してきました。指標として用いた環境啓発事業等への参加者数も高い水準を維持しており、市民・事業者意識調査では、環境が良くなったと感じている市民の割合が多いなど、これまでの環境に関する取組の成果が現れています。

しかしながら、環境に関する課題は日々変化しており、気候変動が自然環境や生活環境の課題にも影響するなど、それぞれが関連し複雑化しています。今後は、そのような状況にも対応するため、これまで以上に各主体による協働を推進するとともに、充実した環境啓発を実施していくことが重要となります。